

平成21年5月26日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2006-2008
 課題番号：18530704
 研究課題名（和文）文化創造としての和文化教育の構築と教材開発—伝統芸能を焦点に—
 研究課題名（英文）Construction of the Wa Culture Education and the Instructional Materials Development—Focus on Traditional Arts—
 研究代表者
 中村 哲 (NAKAMURA TETSU)
 兵庫教育大学・学校教育研究科・教授
 40091813

研究成果の概要：

日本の生活文化・地域文化・伝統文化・現代文化に基づく社会科及び総合学習のカリキュラムと授業実践（教材）を文化創造としての和文化教育の観点から教育開発的研究方法によって具体化することを研究目的としている。そして、東京都、兵庫県、東広島市、島田市などの教育委員会との協力を図り、小学校、中学校、高等学校におけるカリキュラムと授業の開発を行い、その教育の意義を考察している。さらに、韓国と中国における伝統・文化に関する教育の動向も検討している。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	900,000	0	900,000
2007年度	800,000	240,000	1,040,000
2008年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	2,400,000	450,000	2,850,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：

教育学 教材開発 社会科教育 文化学習 和文化教育 伝統文化教育 学習指導

1. 研究開始当初の背景

(1)本研究遂行に際して、平成17年度から和文化教育を提唱し、和文化教育研究交流協会（会長山折哲雄）を設立し、和文化教育を推進する全国的活動を展開していること。
 (2)我が国の教育改革の重点事項として伝統と文化を尊重する教育を推進する動向が生じてきたこと。

(3)平成17年度から東京都を始め兵庫県において「日本の伝統・文化の教育」「日本の文化」などの教育が推進されてきたこと。
 (4)平成20年度から本学大学院修士課程のカリキュラムにおいて「日本文化理解教育」を推進できる教員養成の授業科目が設定されたこと。

2. 研究の目的

研究の目的は、次の6事項を設定している。

- (1) 日本の生活文化・地域文化・伝統文化に基づく授業実践に関するデータベースを開発する。
- (2) 日本の生活文化・地域文化・伝統文化に基づく授業実践の中からモデル授業実践を撮影し、デジタル映像記録を作成する。特に、伝統芸能と民俗芸能の領域を活用した授業実践を中心に記録する。
- (3) 日本の生活文化・地域文化・伝統文化に基づくモデル授業実践についての分析的研究方法によって授業実践の規則性を解明する。
- (4) 日本の生活文化・地域文化・伝統文化に基づく社会科及び総合学習のカリキュラムと授業実践（教材）を文化創造としての和文化教育の観点から開発的研究方法によって具体化を図る。
- (5) 開発したモデル授業案に基づく実験・実証的研究方法によって教材構成と学習指導方法を評価する。
- (6) 研究成果に関するウェブページの構築と図書の刊行をする。

3. 研究の方法

- (1) 和文化教育関連の授業実践データベースを構築し、ウェブページにおいて利用できるようにウェブデータベースを開発する。
- (2) 歌舞伎、文楽、能楽の領域などを活用した協力校を選定し、各学校での取り組みを概査する。そして、学校訪問によってモデル授業実践の撮影をする。収録した記録ビデオの整理・編集を行なう。
- (3) 歌舞伎、文楽、能楽の領域などを活用した各学校での取り組みの概査結果を踏まえて、継続的に調査する学校を抽出する。
- (4) 外国の学校教育における日本文化に関する授業実践と教材開発などを調査する。
- (5) 各学校における取り組みの記録ビデオの整理・編集を行ない、分析対象の事例を選択する。特に、分析対象として選択した授業における歌舞伎、文楽、能楽に関連する伝統芸

能ビデオや書籍を収集する。

- (6) 分析対象として選択した歌舞伎、文楽、狂言の領域を活用したモデル授業実践の記録ビデオをてがかりに学習指導過程を分析する。
- (7) 研究成果を報告書、著書、論文、ウェブページなどの形式で公開する。

4. 研究成果

- (1) 国立教育政策研究所の「我が国の伝統文化を尊重する教育に関する実践モデル事業」の授業実践の観察と記録のために、京都、東京、静岡、広島、高知、愛媛、広島、石川、鹿児島などにおける和文化関連教育の実践校を訪問し、授業記録と資料収集を行った。これらの活動をてがかりに、日本の生活文化・地域文化・伝統文化に基づく授業実践に関するデータベースを開発し、そのデータをウェブサイトとして公開できることになった。なお、これらのデータは平成21年6月には公開する予定である。
- (2) 兵庫県内の和文化関連教育についての事例を和文化の領域に基づいて類型し、兵庫県内における和文化関連教育の特性を明確にした。特に、兵庫県立高等学校設定科目として昨年度から開始された「日本の文化」の科目において実践されている授業については兵庫県教育委員会と連携して研究会を開催した。そして、これらの研究成果を活用して地域の獅子舞とそば作りに関する授業を開発した。なお、当初の研究では「伝統芸能」を焦点づけて研究する予定であったが、和文化関連内容が多様な領域に関係すること、学校でのカリキュラムの教育活動として編成されている場合には、多様な活動が取り入れられているので、伝統芸能の領域のみならず他の領域も研究対象として取り入れることにした。
- (3) 東広島市における伝統文化に関する教育の取組については、市教育委員会の協力を得

て全国大会を実施した。この大会においては市内の幼小中の学校園50校が、各学校園において実践している伝統文化（和 문화）に関する教育実践をパネルで発表した。それらの中からモデル推進校は、授業公開を実施した。さらに、「伝統文化に関する教育の動向と意義」というパネルディスカッションを行った。パネラーとしては文部科学省・東京都教育委員会・東広島市のモデル推進校の関係者の協力を得た。

このような全国大会において東広島市としての取組は、次のように評価された。教育目標である「東広島市の地域・文化を知り、誇りをもち、語れる子ども」の育成を担う教育活動の中心柱として和文化教育を位置づけていること。さらに、西条中学校が酒づくりの活動に基づいて組曲「西條」という新総合芸術に取り組んでいるように地域文化を伝承する活動だけでなく地域文化を活用して新たな文化創造に取り組んでいること。すなわち、東広島市の取組は、学校単位ではなく、地域全体の面としての伝統・文化に関する教育を創出しているところに、今後の和文化教育の方向を示す意義がある。

(4)外国における和 문화関連教育については、中国の華東師範大学と韓国の全州教育大学からの交流訪問があり、両国における教育の動向と本学大学院における日本文化理解教育のカリキュラムの内容と意義について考察した。

(5)本研究の最終年度であるので、報告書「文化創造としての和文化教育の構築と教材開発」を刊行した。さらに、研究成果を編著として平成21年度内に出版することになっている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計7件)

①中村 哲、和文化教育東広島全国大会パネルディスカッション「和 문화関連教育の動向と意義」の概要、和文化教育研究交流協会「和文化教育研究紀要」、第3号、pp.54-55、2009、無

②中村 哲、文化創造としての和文化教育の構築と教材開発、平成20年度科学研究費補助金（基盤研究C）研究成果報告書、pp.1-76、2009、無

③中村 哲、シンポジウム「偏角の時代に、社会科はどう変わりうるのかーグローバルズムとナショナリズムの狭間でー」の概要と意義、社会系教科教育学会「社会系教科教育学研究」、第20号、pp.191-196、2008、有

④中村 哲、日本の伝統と文化に関する教育の動向と課題、人間教育研究協議会編「教育フォーラム42 伝統・文化の教育」、金子書房 pp.44-54、2008、無

⑤中村 哲、韓国と日本における教師のコンピテンス育成と教師教育ー全州教員大学の「伝統文化教師養成事業」と兵庫教育大学学校教育研究科の「日本文化理解教育プログラム」を手がかりに一、連合研究科共同研究プロジェクトE中間報告「教育実践学の理論構築及びモデル研究」、pp.103-112、2008、無

⑥中村 哲、教育研究最前線伝統と文化に関する教育の重要性、文部科学省教育課程課「初等教育資料」、No.830、pp.68-73、2008、無

⑦中村 哲、和文化を大事にした教育のために、人間教育研究協議会編『教育フォーラム37』、金子書房、pp.129-139、2006、無

[学会発表] (計5件)

①中村 哲、第4回和文化教育研究交流協会全国大会パネルディスカッション

「和 문화関連教育の動向と意義」、2008年10月25日、東広島運動公園体育館

②中村 哲、伝統・文化領域に関する学力形成の性格と方法、日中国際シンポジウム、2007年12月27日、華東師範大学

③中村 哲、小原友行、沈 明敏、田 鎬潤、第56回全国社会科教育学会・第19回社会系教科教育学会合同全国大会シンポジウム「変革の時代に、社会科はどう変わりうるか」ーグローバルズムとナショナリズムの狭間でー2007年10月27日、兵庫教育大学

④中村 哲、第37回全国社会科・生活科教育研究大会テーマ別講座「伝統と文化を扱う社会科授業構成」、2007年7月26日、豊島区民センター

⑤中村 哲、梶田叡一、中元孝迪、河内厚郎、中奥良則、第3回和文化教育研究交流協会全国大会パネルトーク「地域と人づくり」、2007年4月30日、兵庫県立歴史博物館

〔図書〕(計2件)

①梶田叡一監修、中村 哲編著「学校を活性化する伝統・文化の教育」、学事出版、pp.1-230、2009

②中村 哲、個性豊かな文化の創造を図る「伝統」と「文化」の継承・発展、嶋野道弘監修学校運営実務研究会編『小学校新学習指導要領ポイントと教育課程づくり 総則』東洋館出版社、pp.74-79、2008

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中村 哲
兵庫教育大学・学校教育研究科・教授
40091813

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし